

牧落のロマンスチック街道（箕面高校から市役所）の両側、粟生団地、如意谷団地、青松園、間谷住宅、外院の里、豊川住宅、船場卸売団地、小野原住宅など皆さんの馴染みの街が此の時期に出来たのです。なを、箕面山麓開発の端著となった平和台（箕面 8）は、法改正前のものです。

さて、住宅地が整備されると、多くの人々が箕面へ移り住み、人口が急増した。第一線でバリバリ活躍する人々は、一方で子育ても行われ、小中学校は次々に満杯となり、学校の分離、新設が行われた。

この時期に移転して来た人々も、年月を経て第一線を退職し、高齢化していく一方、子供たち（第二世代）は独立し、他へ移住していく。戦前と異なり、人々の暮らし方も大きく変わり、子供は親と同居せず生活する時流となった。（核家族化）従って団地や住宅地では、高齢化が進み、同時に孫たち（第三世代）も同居していないので、子供たちも減少し、人口減につながっている。少子高齢化を言葉として誰もが知っているがパネルにすると、身近な問題となってきた。

これらの町では、住宅や建物耐用年数以内で、高齢化の波に曝されることになった。大規模団地も建替えの話が出ており、豊中の千里団地では次々に工事が行われている。一方企業の社宅群は、パブル崩壊時に、生き残りの為に、殆どが売却され、多くが新たな住宅地に替わった。例えば全日空の社員寮、日本セメント社宅、関電社宅等々で街並みが変わった。

しかし、箕面市の高齢化の流れは、多少の新規住宅建設で、新しい住民を呼び込んでも、止められず、財政的には高齢化による出費増、税収不足を来すので、平成に入り箕面森町、彩都、小野原西地区の大規模造成を行われ、新しい住民の誘致が進んでいる。暫くは、これにより息継ぎが出来るだろう。しかし、40, 50 年後には再び新しい開発地が、高齢化するだろう。それ以前に、既存の市街地の様相が、どの様なものとなっているのだろう。

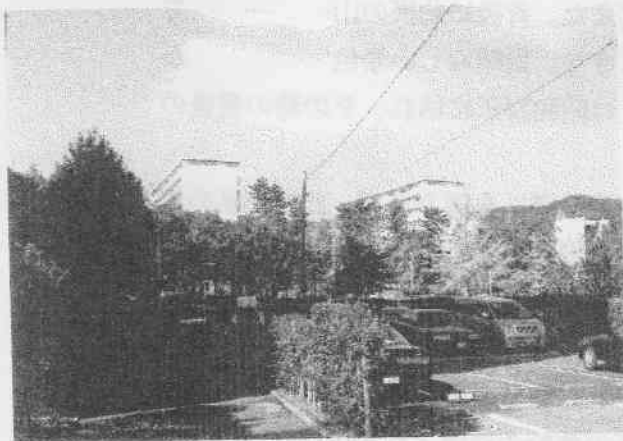
人口の変動が、街並みに大きな係わりをもつ。旧集落、桜ヶ丘、桜井住宅、箕面住宅などの変化が、その方向を示唆しているように思う。

まちなみ景観と一口に言うが、伝統的な街並みも、年とともに時代の流れが早まり、維持が困難な時期を迎えるだろう。その為には



旧来の伝統的な街並みだけでなく、新しい感覚の景観のあり方を、皆んなで考えることが大切ではないだろうか。

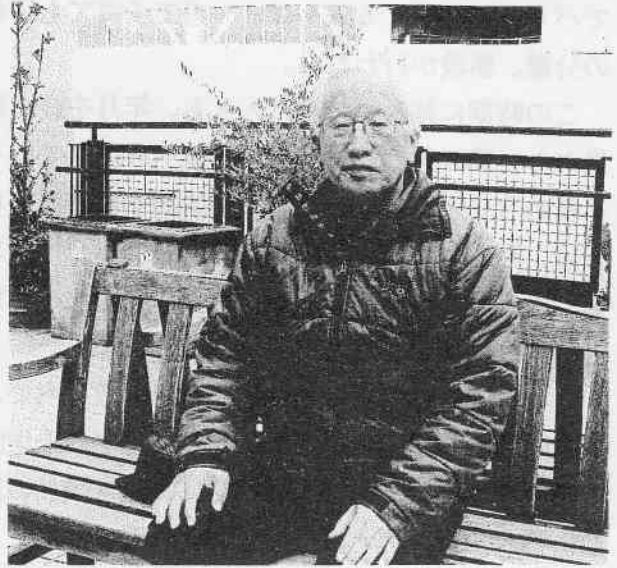
（大町 凱彦）



東浦 範直

私は、粟生外院で生まれた。地名は聖徳太子が創造された帝釈寺を勝尾寺外院としたことに由来します。

故郷、粟生外院は、帝釈寺を中心にして、昔から戸数 36 軒すべて檀家です。昭和24年(1949)以前、寺の境内の中心に、大きな「五葉の松」が、そびえていました。高さは悠に 20mを越え、幹回りは 5m 位、樹齢千年と言われ、他を圧する堂々とした大木でした。石の柵で囲われ「天孫降臨の松」の石碑が建っていた。本堂と良く調和していました。本堂の南の大門は、「赤門」と呼ばれており、今でもそう呼んでいる人がいます。むかしは、朱塗りの門であったのでしょうか。



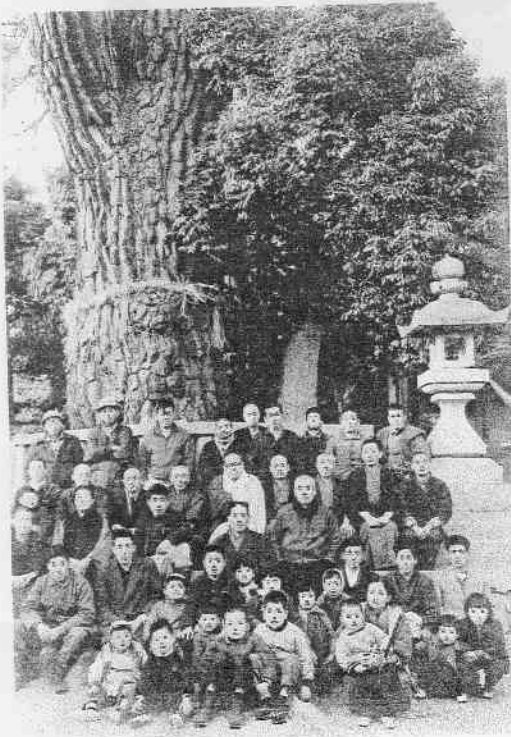
村の子供たちは物心が付くと、お寺の境内が、遊び場でした。私も、そのうちの一人でした。昔は周囲が田んぼばかりで、遊び場が少なかったのが格好の場所でした。縄跳び、ドッチボール、野球、陣取りなど日が暮れるまで遊んでいました。思い出に残るのは、ゴムボールの野球で、ボールが松の木に激しく当たると、幹の皮と皮の境目にボールが食い込んで落ちて来ない。しかし、日が経ちますと空気が減って自然に落下した。面白い現象が印象的で懐かしい。

時には住職が、本堂の広い雨縁で、紙芝居をしてくれて、楽しく見たものです。また、遊び疲れたら雨縁でよく昼寝をしたものです。子供たちを温かく見守ってくれたことに、今になっても、感謝の気持ちで一杯です。感謝！ 感謝！！

当時、国道 171号線から北へ進むと、右に新家の春日神社の森を見え、やがて田んぼと外院の家並み、帝釈寺の松が見えて来た。背後に北摂の山が広がって一幅の画を見るような、素晴らしい景色が広がっていました。しかし、「五葉の松」は昭和24年に枯れ、その時の最後の記念写真です。

この道（勝尾寺表参道）を通るたび、此処が私の故郷だと思い、人生の原点を感じます。わたしは此の村が大好きです。

箕面市は、東西に長い街並みですが大半は山を背景か、みどりに包まれた街で、施設、環境は素晴らしい。しかし、私には街の施設や環境よりも思いが強い。何故なら、この箕面に生を受けたのだから！！



小野原のおしゃれな店アラカルト

(Part 2)

小野原西 5,6丁目の市道沿いの店舗に付いては、一昨年秋に紹介しましたが、その後も続々と開店し、おしゃれで爽やかな街並みが完成しつつあります。

そこで、新しい住民が急速に増加するなか、おしゃれなお店で、ショッピング、食事、憩いを求める客で賑わう街並みを第二弾として紹介します。

この地域は、箕面市が、都市景観形成地区に指定し、店舗などの色彩、広告物の表示内容について、景観を阻害しないように指導しています。この結果、原色系のケバケバした色つかいや、大きな看板などが無く、爽やかな街並みが次々に生まれました。特に最近、新規進出の店舗では、市の指導を受けるまでもなく、自主的に周囲の店などと調和したデザイン、色づかいを設計段階から準備しているそうです。どうやら、住民意識の高まり、市の姿勢が、進出店舗に、理解され定着して来たようです。

沢山のお店で全部を示されないのが残念ですが、印象的な店を紹介しアラカルトとしました。皆さんもこれらのお洒落な街を是非訪ねてみて下さい。

此の動きが、小野原地区だけでなく、箕面市全体に広がることを願っています。特に既存の目をひそめる原色系のケバケバした色つかいや、大きな看板などを改築時や塗装替えの時点で改善指導が出来る様、条例などの強化を期待したい。

とは云え、小野原地区に多くの市民が訪れ、賑わいを見せることが、他地区の店主さんに、目立つだけでは客は呼べないの認識を深め、景観に配慮することに繋がると、期待したい。



毎年パネル展にマンホール蓋を協賛出展し、多くの方に関心をもって頂いています。今年も橋の景観と、お子様にも楽しめる魚、貝などをデザインされたものを選んでパネルにしました。

日本は沢山の川があり、橋が架かっています。最近では島を結ぶ橋も増えています。技術の進歩で明石大橋、瀬戸大橋など長大橋が次々に架かっています。吊り橋、斜張橋、アーチ橋など種類も多彩です。マンホール蓋にも色々な橋がデザインされています。

明石大橋、瀬戸大橋、横浜ベイブリッジ、神戸大橋など、ご存じの橋を出来るだけ集めました。しかし、全容を見る機会は殆どありません。多くは車で通過しますので、全体の姿はテレビの映像などで知ることが多いのです。

一方、三朝大橋、こおろぎ橋、宇治橋など名所の橋は旅をされた際に、散策の途中で接し、懐かしい思い出となっています。

マンホール蓋のデザインは、最近、町の看板要素で、町起こしの一翼を担うと言われています。橋シリーズは、殆どがこれに該当します。



魚、貝などのマンホールも沢山在ります。海にすむものの

代表格が鯨です。長門市青海島のものを出展しました。此処は昔から鯨捕りが有名で、珍しい鯨の墓を祀っています。その他お馴染みの和歌山県太地町、意外な地は東京都昭島市（鯨の化石が出土）です。珍しいのは笠岡市のかぶとがに、美祢市のアンモナイトの化石などです。美祢市は秋芳洞の隣で、石灰石の台地が、海だったことを示しています。

真珠の産地愛媛県愛南町は、人魚のデザインで発想の面白さを感じます。海亀、ふぐのデザインは愛らしいですね。

一方、川に棲むものの代表は、鮎です。特に清流を泳ぐ鮎は、河川の汚染浄化のシンボリック的存在です。山が深くなるとヤマメも登場します。上越市のメダカ、本庄市のトゲ魚は、汚染浄化の願望を示しています。

金魚で有名な大和郡山市は、街中に金魚が泳いでいるようです。珍しいもので、山椒魚、鯰、どじょうがあります。

皆様も、足元に目をやって、各地のマンホール蓋から、ロマンを感じて下さい。楽しいですよ。

(大町 凱彦)



4月のタウンウォッチング案内

粟生丘陵を歩き、バラ園を鑑賞しながら、春の田園地帯を散策

日時：4月21日（第三土曜日）午前9時30分 粟生団地バス停集合（小雨実施）

コース：粟生団地バス停⇒東図書館（彩都粟生北町遠望）⇒粟生第四住宅（南北に下る地形を実感…粟生丘陵の尾根）⇒東幼稚園⇒粟生霊園（粟生丘陵の最高点）⇒外院の里北公園⇒帝釈寺（小休止）⇒バラ園鑑賞⇒萱野東小⇒石丸レンゲ畑散策⇒レモン畑⇒千里川畔⇒ヴィソラ（解散）

歩く距離：約4.8km

見どころ：今宮交差点から東へ向かうと、国道171号線の左手、北摂の山並みの山麓は、小高い丘に遮られて見えない。一方、サントリートレセン付近から、東へ山麓線を進んでも、国道171号線は見えない。粟生丘陵に遮られているからです。タウンウォッチングで、日頃感じない粟生丘陵を体感しましょう。

粟生外院、帝釈寺の近くにバラ園があります。宝塚の園芸デザイナーと園芸業者によって造られてそうで、50種類のバラを中心に、いろいろな花が植えてあります。（時期的に少し早いかな？）

石丸のレンゲ畑は、花が開く直前の田園風景が楽しめます。（レンゲ祭りの一週間前）



楽しい タウンウォッチング

私たちの住む 美しい『みのお』を再発見しましょう !!

●タウンウォッチングとは

2003年に始めてから10年、箕面市内を隅々まで見て回り、日頃気付かなかったまちの風景、建物の造りなど、箕面の美しい素敵なお宝を、1コース4~8kmを2~3時間かけてまち歩きをします。たまに珍しい「お宝」も発見できます。年に8~10回程度開催します。

●ご案内 と 参加申し込み

予定：箕面市広報誌「もみじだより」市民の広場オアシスに掲載

参加申込：担当 大町凱彦 箕面市坊島3-1-46 TEL 072-723-3298

★参加者名と電話Noを事前連絡が必要です

★配布資料費と保険料として一人100円を当日頂きます

★まちなみ会議活動記録★

- 11月 23日 タウンウォッチング ”止々呂美の古い集落を訪ねて”
- 12月 25日 定例会議、活動状況報告他、パネル展テーマを ”緑視率” タウンウォッチング” を主体にすることとし、具体的内容に付いて討論
- 1月9, 18日 打合せ会 ”緑視率” ”タウンウォッチング” のパネル企画担当、チラシ等の製作企画担当など、役割分担の素案を決める。
- 23日 臨時タウンウォッチング ”新千里ニュータウンに囲まれた、旧き上新田を訪ねて”
- 29日 定例会議、活動状況報告他、パネル展のテーマ別担当を決める。
- 2月 29日 テーマ別担当より、企画概要説明。参加者による緑視率計測実習
- 3月15, 19日 ”タウンウォッチング”, ”緑視率” のパネル作成
- 16日 大阪美しい景観づくり推進会議総会出席。23年度まちなみ会議の活動報告を行う。
- 20日 まちなみ通信・みのお 45号 パネル展特集発行
- 4月 4～11日パネル展 (メープルホールロビー)



・東日本大震災から1年が経過し、多くの人々が力を合わせ、ようやく復興の動きも活発化する気配が強くなりつつあります。大きな津波に、建物や街が一瞬で消えたようになりましたが、緑だけは根強く残りました。しかも、ブナや樺などの自然樹木が強かったことが、印象に残ります。

・私達の暮らす箕面は、北摂の山並みが身近に迫る緑豊かな街です。また、幹線道路には街路樹が整備され、住宅の周辺でも生け垣、花作りが活発に行われ、市の目指す ”みどり豊かな街” への方向に向かっています。しかし、緑の量を定量化する手法が確立していないので、単に緑が多い (豊かな) などの表現に止まっています。

・みのお市民まちなみ会議は、昨年から ”緑視率” に付いて研究を始めています。そこで今年のパネル展では、多くの方々に、写真や解説をパネル展示して、 ”緑視率” を身近に感じて頂きたいと思っています。是非皆さんも一緒に考えて下さい。また、日々変わりつつある街並みを、ウォッチングして箕面の隠れた美しさ、歴史を掘り起こして頂きたく、タウンウォッチングのパネルを展示しました。ご覧になり、是非みんなで歩きましょう。

・箕面市のまちづくり政策課小山課長に寄稿頂きました。市の重要施策の滝道の景観保持に、皆さんの協力を呼びかけておられます。

・シリーズの ”景観に配慮した色彩” では、小野原西地区に素敵なお店が、次々に開店しているので、アラカルトとしました。 ”箕面を愛する活動” では、 ”皆んなで子育てを支合う” 活動を続ける萱野小福祉会を紹介しました。 ”VIVA箕面” は、東浦会員が子供時代の思い出を記して下さいました。

(大町 凱彦)

発行: NPO みのお市民まちなみ会議 <http://minohmachinami.cocolog-nifty.com>

代表者: 今枝章平 ☎ 562-0046 箕面市桜ヶ丘 3-1-1

TEL&FAX 072-722-3253

郵便振込口座番号 0920-9-133953

